

学校と地域を結ぶ



なぜ学校と地域の連携・協働が必要なのでしょう？

教育を取り巻く状況やこれからの時代に求められるもの等から考えていきましょう。

学校や社会（地域）の状況は…

- ◆教育環境を取り巻く状況
 - ・児童生徒の減少
 - ・子どもの規範意識等への課題
 - ・学校が抱える課題の複雑化・困難化
- ◆教育環境の動き
 - ・「社会に開かれた教育課程」の実現など
- ◆社会の動向
 - ・少子高齢化の進行
 - ・グローバル化や情報化の進展
 - ・地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域教育力の低下
- ◆地方創生の動き
 - ・学校を核とした地域の活性化

そこで、求められるのは…

- ◆これからの時代を生き抜く力の育成（学校だけでは得られない知識・経験・能力）
- ◆地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換

★新学習指導要領（小学校：令和2年度～、中学校：令和3年度～、高等学校：令和4年度～全面实施）では、改訂の考え方を以下のとおり示しています。

何ができるようになるか

—育成を目指す資質・能力—

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現

何を学ぶか

—具体的な教育内容の改善・充実—

どのように学ぶか

—主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善—



★新学習指導要領の趣旨・内容を保護者や地域の方々と共有することが「社会に開かれた教育課程」の実現への第一歩です。

「社会に開かれた教育課程」

(新学習指導要領の基本的な理念)

- ①よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有する。
- ②これからの社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育で育成する。
- ③地域と連携・協働しながら目指すべき学校教育を実現する。

すなわち…

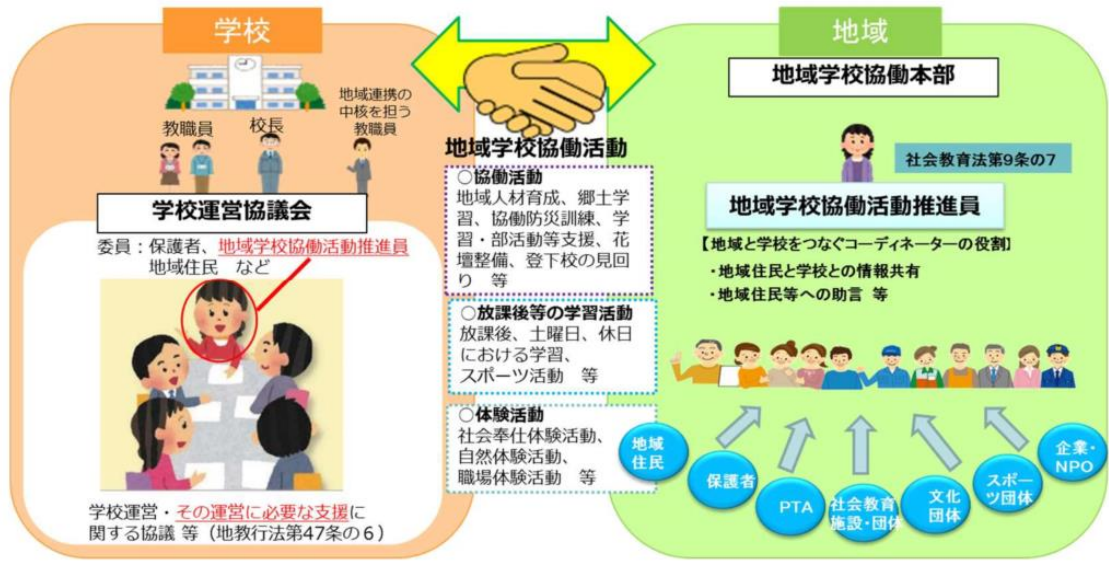
学校は、社会と自校との関わりを捉え、社会とのつながりを考えた教育課程を編成して、社会と共有・連携しながらその教育課程を実施していくことが求められます。

そのため…

学校と地域の連携・協働が必要！

地域と連携した活動を進めるための仕組みは？

学校と地域の連携・協働活動を推進していくために、学校運営協議会と地域学校協働本部が両輪として機能し、相乗効果を発揮していくことが期待されます。



「コミュニティ・スクールのつくり方（文部科学省）」より

学校運営協議会

地域住民や保護者等が学校運営に参画し、「熟議」を通して目標やビジョンを共有することによって、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる、法に基づく仕組み（学校運営協議会を置く学校＝コミュニティ・スクール）

地域学校協働本部

多くの地域住民、団体等が参画し、それぞれのつながりを持ちながら、地域と学校が目標を共有して行う双方向の「連携・協働」型の活動を行う体制

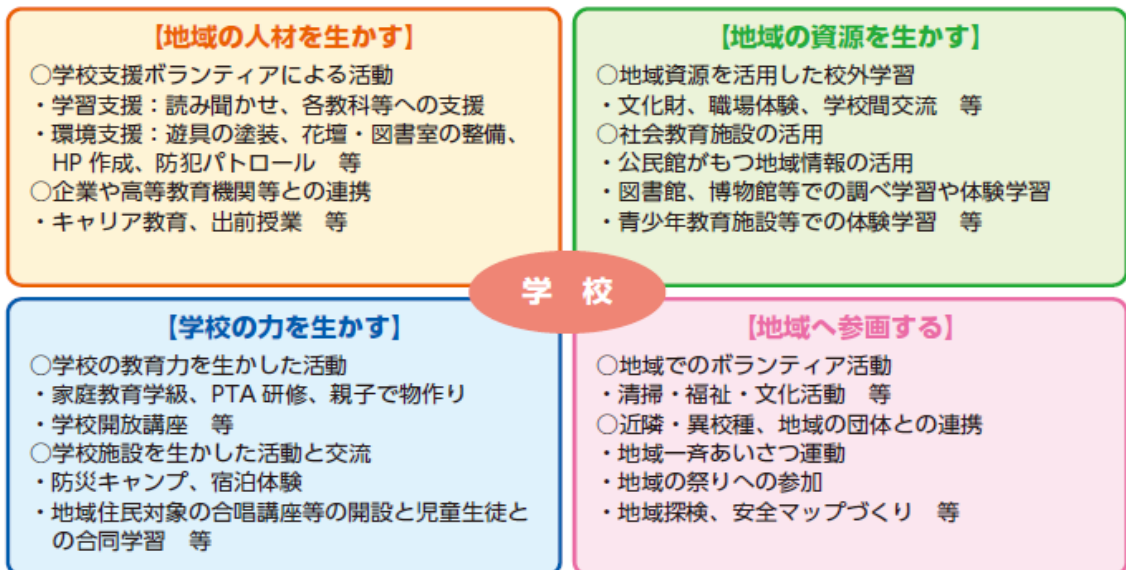
地域学校協働活動

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動

地域と連携した活動の充実のために、どんな活動が必要か考えてみましょう！

栃木県では、地域連携活動の視点として以下の4つを挙げています。

教育目標や活動のねらい、子どもの発達の段階等を踏まえ、各学校の状況に合わせて取り入れていきましょう。



「地域連携教員のための手引き書（栃木県教育委員会）」より

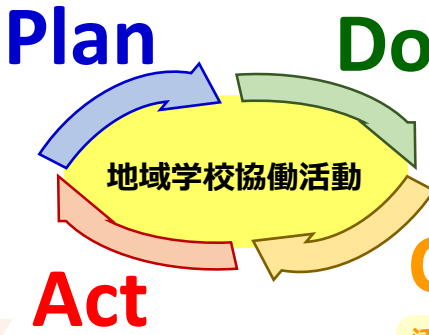


これまでの活動を振り返り、改善を図りましょう！

活動を定期的に振り返り、効果を確認しながら改善していくことが大切です。

活動に関して協議する

- ・何を目的・目標にして行うのか？
- ・どのように行うのか？（効果的な手段？）
- ・「教育課程」とどう関連付けるのか？ 等



地域学校協働活動を行う

- ・授業補助
- ・課題解決学習
- ・読み聞かせ
- ・放課後子供教室
- ・地域行事 等
- ・ふるさと学習
- ・キャリア教育支援
- ・登下校の見守り
- ・学校行事

活動を改善する

- ・目的・目標の再設定・微修正
- ・何をスクラップ・統合するか？
- ・新たな課題への対応をどうするか？
- ・どのように「業務改善」を行うか？ 等

Check

活動を評価する

- ・学校評価（自己評価・学校関係者評価）
- ・授業評価

地域と学校が連携・協働することで期待される効果は？

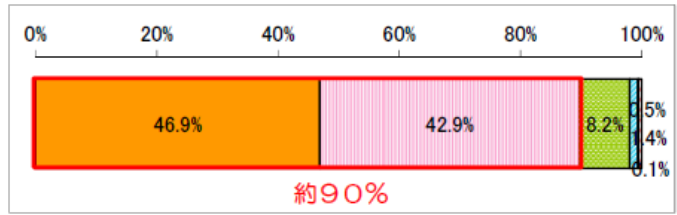
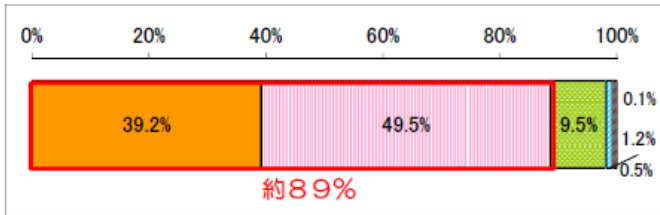
★子どもたちにとって

- 「生きる力」が育成される
- 地域への愛着が芽生える
- 学力向上の基盤をつくる
- 社会性が育まれる



◆実際に地域学校協働本部事業に参加してみて、子供たちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、**コミュニケーション能力の向上**につながった。

◆実際に地域学校協働本部事業に参加してみて、子供たちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、**地域への理解・関心**が深まった。

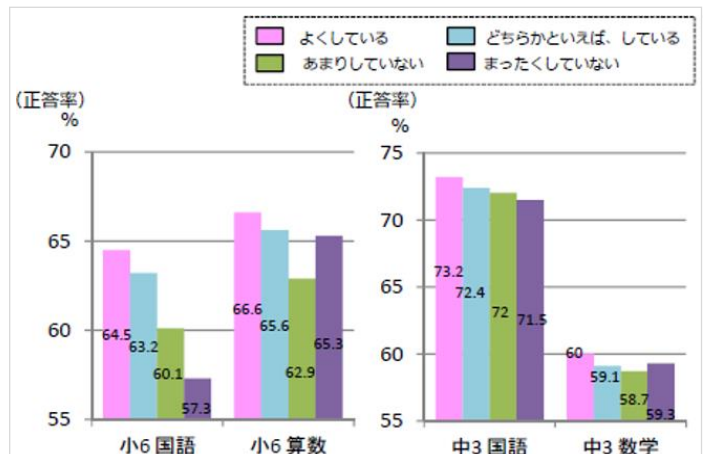
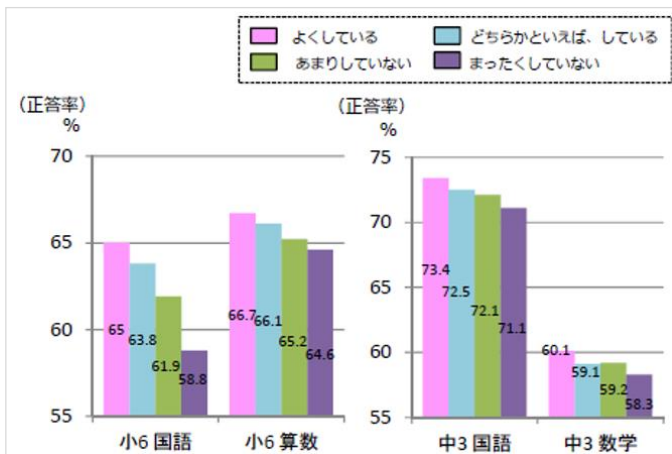


とても思う
やや思う
どちらともいえない
あまりそう思わない
まったくそう思わない
無回答

「平成27年度地域学校協働活動の実施状況アンケート調査（文部科学省・国立教育政策研究所）」より

◆教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。

◆保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか。



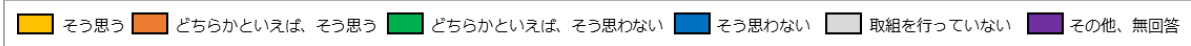
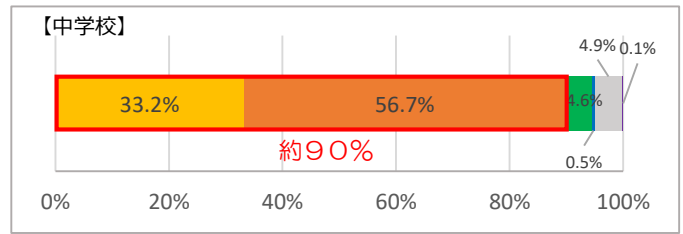
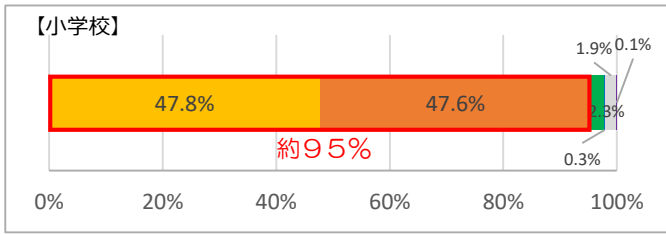
※取組の状況と学力調査の平均正答率の関係を表しています。
「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査（文部科学省）」より

★学校や教職員にとって

- 教育課題が解決する
- 地域との信頼関係が構築される
- 地域への理解が深まる
- 授業の内容が充実する

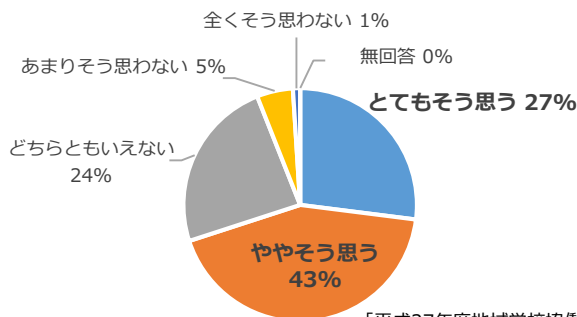


◆保護者や地域住民との協働による取組は、**学校の教育水準の向上**に効果がありましたか。



「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査(文部科学省)」より

◆地域住民が学校を支援することにより、**教員が授業や生徒指導などにより力を注ぐ**ことができましたか。



立ち上げ時は一時的に負担があるかもしれませんが、定着化すれば教員の負担減も期待できます。



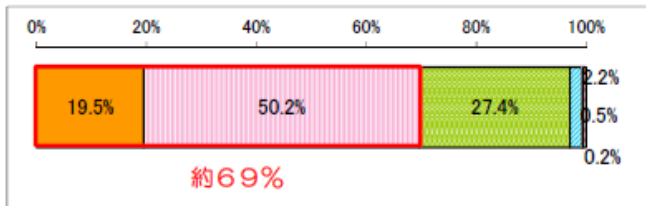
「平成27年度地域学校協働活動の実施状況アンケート調査(文部科学省・国立教育政策研究所)」より

★地域や保護者にとって

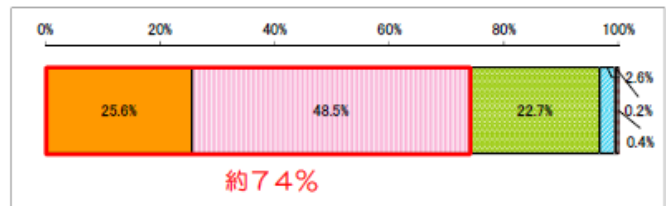
- 生涯学習活動が充実する
- 地域コミュニティが活性化する
- 地域の教育力が向上する



◆実際に地域学校協働本部事業に参加してみて、地域住民が学校を支援することにより、**地域の教育力が向上し、地域の活性化**につながった。



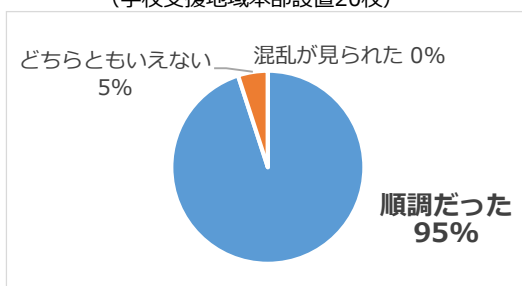
◆実際に地域学校協働本部事業に参加してみて、地域住民の**生きがいづくりや自己実現**につながった。



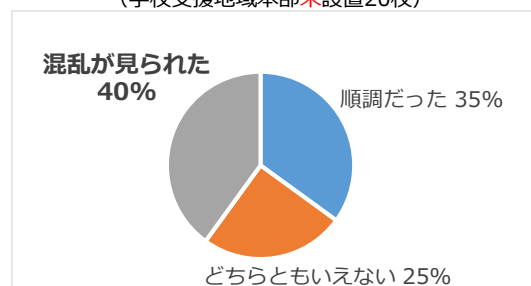
「平成27年度地域学校協働活動の実施状況アンケート調査(文部科学省・国立教育政策研究所)」より

◆東日本大震災時、避難所において自治組織が立ち上がる過程は順調でしたか。(宮城県)

(学校支援地域本部設置20校)



(学校支援地域本部未設置20校)



「東日本大震災後の宮城県内の小中学校長40名へのアンケート調査(文部科学省)」より